退職記念研究論文

『英語ことわざ用法辞典』に向けて

Toward a New Dictionary of English Proverbs with Linguistic Information

奥　田　隆　一
Takaichi Okuda

As in Japanese, proverbs are used in everyday life in English as well. In my previous book entitled *On the Use of English Proverbs Today*, I attempted to create a list of how frequently proverbs are used in our daily life by using a database of newspapers. As the result of it, we can understand what the most important proverbs are in our daily life. In this book, we have also discussed the variant forms of proverbs in detail. However, since I took a broad view of proverbs as a whole and analyzed their characteristics, I felt it necessary to take a closer look at how each proverb is used. Therefore, I decided to create a *New Dictionary of English Proverbs with Linguistic Information* which explains each proverb more in detail than previously published dictionaries of English proverbs. In this paper I will discuss what kind of information should be added in the new dictionary of English proverbs: formality, part of the prover is used or not, difference between America and British form, connotation of each proverb, variations of each proverb.

キーワード
English proverbs, pragmatic information, variations of the proverbs, formality, regional difference

1．はじめに

日本語と同じように、英語においてもことわざが日常生活で使われている。しかしながら、日本での英語の授業などでは、どのことわざも同等の重要性があるかのように教えられてきた。特に、日本人はことわざが好きなようで、日常的に英語よりもことわざが使われる頻度が多いように思われる。そこで、どのような英語のことわざが頻繁に使われるのかを探ろうとしたのが拙著『英語ことわざ使用の実態』である。この本ではことわざがどの程度頻繁に使用されているのかを新聞のデータベースを使いその頻度のリストを作成する事を試みた。その結果、よく使われることわざがどのようなものであるのかが見えてきたのである。この本では、ことわざの変異形についても詳しく触れた。しかし、ことわざ全体を大まかに捉えて、その特徴を分

析したため、やはりそれぞれのことわざの使われ方をきちんと見ておく必要を感じた。そこで、英語学的な観点も加味した『英語ことわざ用法辞典』というものを作成しようと思い立ち、どのようにことわざの使用について取り上げるべきかをこの論文で検討することにした。

2．従来のことわざ辞典の記述内容

ここで、従来のことわざ辞典などがどのような情報を取り扱っているのかを見ることにしよう。そして、そのような情報だけでいいのかどうかを検討したい。ここでは一つの例として、It never rains but it pours. ということわざをどう扱っているかを見ていくことにする。

2.1. 英語圏のことわざ辞典の記述

まず、英語圏で出版され、一番有名な *Oxford Dictionary of Proverbs* の記述を見てみよう。

> It never RAINS but it pours
> Instances of good fortune（quot. 2002）or, more commonly, misfortune（quot. 2014）often occur together. An archaic use of *but* to introduce an inevitable accompanying circumstance.
> □ **1726** J. ARBUTHNOT（title）It cannot rain but it pours. **1770** C. BURNEY *Music, Men and Manners in France and Italy*（1974）22 July 54 The singers were the same as I had heard at the Burletta.... 'It never rains, but it pours!' **1857** TROLLOPE *Barchester Towers* III. xii. A wife with a large fortune too. It never rains but it pours, does it, Mr. Thorne? **1979** L. BARNEA *Reported Missing* vii. I listened to the radio. Ben Gurion had suffered a stroke.... It never rains but it pours. **2002** *Washington Post* 1 Mar. C5 When it rains, it pours, and Matt Sullivan is being flooded out by women who want to have sex with him. **2014** *Times 29* May 3 First embroiled in a racism controversy, then petitioned for divorce by his wife—it never rains but it pours.
> ■ **misfortune**
> —*Oxford Dictionary of Proverbs*

見てわかるように、どの様な情報が記述されているかというと、ことわざそのものの意味が説明されていて、その次に例文が年代順に示されている。また、but の古い用法がこのことわざで使用されていることが示されている。これにより、ことわざの意味と、いつ頃からそのことわざが使用されていて、今でも使用されているかどうかがわかるようになっている。つまり、このことわざは 1726 年ごろから使用されていて、2014 年でも使われ続けられているのが分かるのである。

それでは、ことわざ辞典に類する英語の本を見て見ることにしよう。*English Proverbs Explained*. という本である。そこには次のような記述がある。

372 It never rains but it pours

In modern English this would read, 'It never rains without pouring.' The meaning is that events, especially misfortunes, always come together.

'What a day it's been,' sighed Mrs Wood. 'First I burnt out the kettle, then the electricity fused, then Mrs Mopp didn't arrive, then the butcher didn't deliver the meat in time for lunch, then the doctor called and said Tommy's got measles. It was one thing after another. They say it never rains but it pours.'

See also MISFORTUNES NEVER COME SINGLY（463）.

—Ridout & Witting, *English Proverbs Explained*, p. 101

この記述を見ると、ことわざの文字通りの意味だけでなく、使う状況に関しても述べている。悪いことが繰り返し起こる時に主に使われるが、いいことが繰り返される場合にも使われるという記述がある。このような情報は、特に英語が母国語でない我々にとっては非常に重要なものであると考えられる。

さらにもう一つ、ことわざに関して書かれている記述を引用しておく。

"When it rains, it pours" exp. "When an event occurs, it occurs with great intensity or frequency."

usage example: I got invited to ten parties tonight! When it rains, it pours!

translation: I got invited to ten parties tonight! When an event occurs, it occurs with great intensity!

VARIATION : **"It never rains, but it pours"** exp.

—*Street Talk 3*, p. 43

この記述で注目すべきは、意味と例をあげているが、それと同時に VARIATION として変異形をあげているところである。

以上、英語圏で出版されていることわざ辞典などの記述内容をまとめると次のようになる。

1．ことわざの意味
2．ことわざの例文と年代
3．ことわざの使用状況

4．変異形

2.2. 日本で出版されていることわざ辞典の記述

それでは、日本で出版されている英語のことわざ辞典を見て見よう。まず、大塚高信・高瀬省三共編『英語ことわざ辞典』の記述を見よう。

（I 954）It never rains but it pours.
（降れば土砂降り）．事は一つの事があると似たような事が次々に起こるの意．必ずしも悪い事についてのみ用いられる諺ではない．［18c. 前期］【一度あることは二度ある】
──大塚高信・高瀬省三共編『英語ことわざ辞典』

これを見れば分かるように、ことわざの意味といつから使われ出したのかという情報と日本語のことわざでその意味に相当するものをあげている。

もう一つ、日本で出版されている北村孝一・武田勝昭編『英語常用ことわざ辞典』の記述を見てみることにする。

It never rains but it pours.（I75）
降れば土砂降り
　いつもは雨がなかなか降らないのに、降り出すと決まって大雨になる。滅多にないことが一つ起こると 、立て続けに起こりがちなことをたとえていう。事故や不幸な出来事などについて使うことが比較的多いが、よいことが続いて起こる場合にも使われる。
◇ Misfortunes never come singly. ／二度あることは三度ある／一難去ってまた一難／弱り目に祟り目／貧僧の重ね斎
──北村孝一・武田勝昭編『英語常用ことわざ辞典』

この辞典には、意味の説明と、どの様な状況で使われるのかという情報、英語で同様の意味を表すことわざ、さらに同様の意味をあらわす日本語のことわざがあげられている。

日本で出版されていることわざ辞典の中で、一番詳しく記述しているのが『現代英語ことわざ辞典』なので、それを見ていくことにする。しかし、あまりにも記述内容が多いので途中は省略して、情報項目がわかるように引用することにする。

982. It never rains but it pours.
降れば必ず土砂降り
　同じような事は起こるとなると続いて起こるものだ。

（中略）良い事が続いて起こる場合もある。そういう場合にもこの諺は使われる。

スコットランドの風刺作家 医師アーバスノット（John Arbuthnot, 1667–1735）の著書 *It Cannot Rain But It Pours* に由来する。（1726）

【類形】Every time it rains, it pours. / When it rains, it pours.

【類諺①】Misfortunes never come singly.（989）/ The bread never falls but on its buttered side.（1003）

【類諺②】It never thunders but it rains.（雷が鳴れば必ず雨が降る）1386 年頃初出。チョーサー『カンタベリー物語」の「バースの女房の話の「序」で次のように用いられた。（後略）

【類諺③】「痛い上の針［針立て］」（『毛吹草』）注「痛い上に塩を塗る」も同じ趣旨。／「一難去ってまた一難」／「前門に虎を拒ぎ［防ぎ］，後門に狼を進む」（趙弼『評史』）（中略）／「泣き面に［を］蜂」注「泣き面を蜂が刺す」（『諺苑』），「泣きっ面に蜂」，「泣き面を蜂が刺す」ともいう。／「二度ある事は三度ある」／「踏んだり蹴ったり」（諺苑」）注「踏んだ上にも蹴る」ともいう。／「弱り目に祟り目［祟り］」

――戸田豊編著『現代英語ことわざ辞典』

この辞典は、まず意味を説明し、次に由来の情報をあげている。その次に【類形】として、変異形を掲載している。ちなみに Every time it rains, it pours. という変異形が When it rains, it pours. とともにあげられているが、データベースの Major Newspaper で調べてみると、Every time it rains, it pours. が 2 例に対し、When it rains, it pours. は 2807 例と使用頻度の差が歴然としている。このように頻度が大きく異なることわざを同列に扱うのは問題があると考える。次に、【類諺①】で、同じ意味で使われる英語のことわざをあげている。また、【類諺③】では同じ意味で使われる日本語のことわざをあげている。しかし、この辞典では今では使われない中国由来のかなり古いことわざに関する記述があり、ここまでの情報は必要ないと思われる。

以上のことをまとめると、日本語のことわざ辞典には英語のことわざ辞典よりさらに加えられた情報項目がある。それを整理すると、次のようになる。

1．ことわざの意味
2．ことわざの例文と年代
3．ことわざの使用状況
4．変異形
5．英語の同意のことわざ
6．日本語の同意のことわざ

3．日本人にとっての重要な情報とは

上で見たような情報だけでことわざ辞典は事足りているようであるが、英語語法学という観点からすると更なる情報が望まれる。それを以下で見てゆくことにする。

3.1. 部分的に使われることがあるのか

ことわざの使用例を観察していると、ことわざの一部分が使われて、ことわざの全体的な意味を表していることがあることがわかる。以下のテレビドラマからの例を見ていただきたい。なお、ドラマ名のあとの S2E12 はシーズン 2 エピソード 12 を表している。

（1）I'll show you how I'm gonna get over Jason. Oh, ***speak of the devil***. There he is. Act natural.──*90210*, S2E10
（ジェイソンのことをどう乗り越えるか見せてあげるわ。あっ。噂をすれば！彼だわ。自然に振る舞ってね）

このように、ことわざの初めの部分だけを言って、相手に理解させる用法は、日本語でもあり、日本語の同意のことわざ「噂をすれば影がさす」ということわざは「噂をすれば」だけで使われることがよくある。

（2）Strax: By bringing it here, he will be lured from the dangers of London to this place of safety, and we will melt him with acid.
Clara: OK, that last part?
Strax: And we will not melt him with acid. ***Old habits***.
──*Doctor Who*, S8E1
（ストラックス：これをここに持ってくれば、ドクターはロンドンの危険なところから、ここのような安全なところへ引きつけられてやって来る。そこであいつを酸で溶かしてやるつもりです。クララ：わかったわ。でも、最後が違うわ。ストラックス：酸では溶かさない。悪い癖が出ました）

この Old habits. の表現だけでは、なぜ habits と複数形になっているのかが分からないであろう。これも、Old habits die hard. ということわざの初めの部分だけが表現されているからである。このことわざの意味は「古い習慣は容易には消えない」だが、この場面では「昔の悪い癖が出てしまいました」という意味で使われている。

（3）A: Let me help. B: ***Too many cooks***.
—*The Resident*, S2E4
（A：手伝おうか？　B：人手ばかりが多くてもな）

これは、Too many cooks spoil the broth.（料理人が多すぎるとスープがダメになる）ということわざの初めの部分だけを使用している。この場面は病院での医師同士の会話なのだが、この用法を知らないと、病院でなぜ急に料理人のことが話題になっているのかが分からないであろう。

もう一つ例を見てみよう。

（4）Actually, I'm more of a Jack man myself, but ***when in Rome***.
—*Leverage*, S2E7
（実を言うと、俺はジャック・ダニエル派なんだが、郷にいればと言うだろう）

これは容易に想像できるだろうが、When in Rome, do as the Romans do. ということわざの前半部分だけを使っている。これはアメリカのバーでの発言なのだが、ウイスキーを注文する時に、いつもはジャック・ダニエルを飲んでいるのだけど、アメリカに来たので「郷に入っては郷に従え」ということわざに従い、バーボン・ウイスキーを注文することにすると言っている。急にローマが出てくるので、このことわざを思い浮かべることができない人にとっては理解し難いであろう。

以上、見たように上の例は、ことわざの一部分が使われている例であるが、この一部分だけでことわざ全体の意味を表している。つまり、このように一部分だけでよく使われることわざがある。反対に、元のことわざが省略されたりして部分的につかわれることが全くないものもある。

このような情報は英語母国語話者ではない我々にとっては非常に重要である。ところが、英語圏で出版されたことわざ辞典には言わずもがなの事なのか、全く示されていない。そこで、日本人向けの英語ことわざ辞典では全体で使われるのか一部分でも使われるのかを示すことが必要だと考える。完全にどちらかであるとは言えないので、不等号を使って、全体＞部分や全体＜部分というふうに示すのが分かりやすいと思われる。

3.2. 変異形についての言及

拙著『英語ことわざ使用の実態』の第３章「変異形のタイプ」で、変異形について次のような分類を行なった。

（a）一部の語句が同意語句で替えられた変異形
（b）語句が省略・付加された変異形
（c）文意を変えないで別の文構造が使われた変異形
（d）文脈に応じて使われる一時的な変異形
―『英語ことわざ使用の実態』p. 21

さらに以下のような下位区分も行なった。

（a）一部の語句が同意語句で替えられた変異形
タイプ A：一般的な同意語との置き換え
A penny saved is a penny ***earned***. → A penny saved is a penny ***gained***.
タイプ B：普通は同意語ではない語との置き換え
A bad workman always ***blames*** his tools. → A bad workman ***quarrels with*** his tools.
タイプ C：適用範囲を広げるための置き換え
An ***Englishman's*** home is his castle. → A ***man's*** home is his castle.
タイプ D：詩的な縮約形の語の普通の語形への置き換え
Faint heart ***ne'er*** won fair lady. → Faint heart ***never*** won fair lady.
（b）語句が省略・付加された変異形
Lightning never strikes ***the same place*** twice.
Lightning never strikes twice ***in the same place***.
Lightning never strikes twice.
（c）文意を変えないで別の文構造が使われた変異形
（i）It is no use crying over spilt milk.
（ii）There's no **use** crying over spilt milk.
cf. There's no **point** crying over spilt milk.
（i）It never rains but it pours.
（ii）When it rains, it pours.
（d）文脈に応じて使われる一時的な変異形
以下は、A cat has nine lives. ということわざの一時的な変異形の例である。

（5）How has deranged Emma Barton in *Emmerdale* got away with murdering her husband for so long? It's as though ***she has nine lives***. Speaking of which, it's a mystery why no one has questioned the disappearance of her first victim – the poisoned family cat! There's no way this killer storyline will end well. ―*Daily Mail*（London）, August 12,

2017
（エマデールという作品の中のエマ・バートンは夫を殺しておきながら、なぜこれほど長い間逃げおおせたのだろうか？まるで命が九つあるようです。そういえば、最初の犠牲者である毒殺された飼い猫の行方をなぜ誰も疑わないのかが謎です！この殺人鬼のストーリーがうまくいくわけがないだろう）

ここでは、Emma という女性のことを述べているが、she has nine lives と表現することにより、その裏にあることわざ A cat has nine lives. を思い浮かべさせ、その後で family cat を話題に上げることを狙っている。

（6）This is ***the GATT that has nine lives***. But is even this knack for survivability enough to produce a new global trading order?――*The Christian Science Monitor*, January 15, 1992
（これが簡単になくならない関税と貿易に関する一般協定なのです。しかし、この生き残りのコツがあれば、新しい世界貿易秩序を生み出すのに十分なのだろうか）

ここでは、GATT が cat と音が似ていること元にして、ことわざを使い、その生命力を強調するのに使っている。
もう一つの音が似ている語を使った一時的な変異形の例を見ておこう。

（7）Looks like S. is B.S.ing as B. Let's hope this works. ***There's no place like Rome***.
――*Gossip Girl*, S5E23
（S が B を演じてるみたい。ローマ行きが決まるといいけど）

There's no place like home. ということわざの home と韻を踏む Rome を使って効果的に使っている。この一時的変異形は辞書に盛り込むとならば、以下の 3.5 で触れる言葉遊びとしての情報として取り上げるのがいいと思われる。
そして、変異形の中でも同意語句の入れ替えの特殊例である PC や時代とともに古くなった語を新しいものに入れ替える場合の情報は特に重要なので、別項目として以下のようなラベルを使うのがわかりやすいと思われる。

変異形の種類：同意語句、省略、付加、別形式、PC、時代変化

3.3. 国別での形式の違い

拙著『英語ことわざ使用の実態』の中の「ことわざ表現の英米差」でも取り上げたが、It never rains but it pours. ということわざは主にイギリスで使用されているもので、アメリカでは When it rains, it pours. の方が、通例使われていることを指摘しておいた。しかし、従来のことわざ辞典でこの変異形を取り上げているのはあっても、ことわざの英米差を取り上げているものはほとんどない。例をあげておく。

（8）Peter: What's going on over there?
Nurse: Another appendix. ***When it rains, it pours.***
—*E.R.*, S2E19
（ピーター：隣は何してるんだ？　看護師：別の虫垂炎です。今日は大当たりですね）
（**）Laying in bed, trying to sleep and then I started thinking, ***"when it rains, it pours."***
But not in here. See, sprinkler system never went off.
—*9-1-1*, S2E16
（眠れなくて考えてたの。全然濡れてない。スプリンクラーが作動しなかったのね）

ところが、なぜアメリカでは It never rains but it pours. より ***When it rains, it pours.*** が使われているのだろうか。このことに関しては、拙著を執筆している時点では分かっていなかったが、Mieder の *Proverbs: A Handbook* の PROVERBS AS HEADLINES AND SLOGANS という項目で次のような情報を見つけた。

（9）And besides, who would not be interested in knowing, for example, that the splendid slogan **"When it *rains*, it pours"** first appeared in 1914 to advertise the fact that the Morton Salt Company had developed a salt that would pour out of a package even in humid weather. The slogan was based on the eighteenth-century proverb **"It never *rains* but it pours,"** but today the advertising slogan has basically pushed the proverb aside.
—Mieder, *Proverbs: A Handbook*, p. 250

つまり、1914 年にモートン製塩会社の宣伝のスローガンとして **"When it *rains*, it pours"** が使われ出したということである。湿度が高い時であっても容器から塩がさらさら出てくることを強調するためだ。今日では、このスローガンは 18 世紀に誕生した **"It never *rains* but it pours,"** ということことわざに取って変わっているとのことである。（cf. https://www.mortonsalt.com/about-us/）

また、各ことわざの起源は、今までも説明されてきたが、さらなる探求が必要であろう。ことわざの起源や英米差は以下のように示すのがいいと思われる。

起源：聖書、文学作品、その他、不明
英米差：なし、米、英

3.4. 発語内行為への言及

一般的に文の形式が「命令文」であっても伝えている内容は「命令」でないことがある。たとえば、ドアがノックされた時に使われる Come in. は「許可」を表し、Pass me the salt. という文は「要請」を表し、Let me carry that. という文は「申し出」を表し、Watch your step. は「警告」を表す。このことは語用論で発語内行為（illocutionary act）として知られているが、代表的な発語内行為は以下のようなものである。

主張（assertion）、命令（command）、約束（promise）、警告（warning）、勧誘（invitation）、質問（question）、依頼（request）、忠告（advice）、脅迫（threat）、申し出（offer）

統語形式と発語内行為との対応はある程度決まっていて、上で見た命令文なら「命令」、「許可」、「要請」、「申し出」、「警告」、「脅迫」などを表し、「約束」などは表さない。同じように、疑問文では「勧誘」、「質問」、「依頼」、「申し出」を表すが、「主張」などは表さない。

この発語内行為という観点からことわざを見てゆくことはことわざの理解には必要不可欠であると思われるが、ことわざ辞典においてはほとんど取り上げられていない。例を見てみよう。

（10）A little learning is dangerous thing. 「警告」
（11）Knowledge is power. 「忠告」
（12）Truth will prevail. 「主張」
（13）Don’t judge a book by its cover. 「命令」
（14）It is never too old to learn. 「勧誘」

もちろん、各ことわざが２つ以上の発語内行為を表すこともあるので、文脈などを考慮する必要があるが、このような情報もことわざ辞典にはとりいれるべきであろう。その場合には、以下のようなラベルを使って表すのがいいと思われる。

ことわざの伝える意味：主張、命令、警告、勧誘、忠告

3.5. その他の情報

さらに、必要である情報としては、ことわががフォーマルな状況で使われるのかインフォーマルな状況で使われるのかという情報も重要だと思われる。以下のような表示を使うのがいいであろう。

フォーマリティ：F > I or F > I

また、伝える意味という項目で発話内行為を示すのだが、さらに、使用の具体的な状況と意味を説明するとよりわかりやすいのではないかと思われる。使用例とともに次のようなラベルを使おうと考えている。

使用例と使われる状況：なぐさめ、あきらめ、はげまし

さらに、言葉遊びなどに使われる場合もあるので、そのような具体例も示すべきだと考えている。次の例を見てみよう。

（15）“Sure. Best thing in the world. All work and no play makes Jack a dull boy or some such.”
“All work and no play makes Jack. Period.”
（「そのとおり。世界で最高のものだ。勉強ばかりして遊ばないと、馬鹿みたいな少年になるよ」「勉強ばかりして遊ばないと素晴らしい男になるのだよ。以上」）

この会話は 2 人の親友の間で交されたものであるが、‘Period’ というのは「ここで切る」という意味。つまり Jack までで止めると、make が「～を成功させる」という意になり、「勉強に専心し遊ばないことが Jack を成功させる」ともとの意と全く逆になり、反論しているのである。これは、ことわざを使った言葉遊びになっている。このような情報もあれば、盛り込むのがいいと思われる。

4．まとめ

以上のように、英語語法学的観点を導入した『英語ことわざ用法辞典』を考えると、どのような情報が必要であるかを検討した。辞書に入れる情報を簡潔に示すには次のようなラベルや項目を使うのがいいのではないだろうか。このような情報を盛り込んだ『英語ことわざ用法辞典』を目下執筆中であるが、早く完成させて英語に興味を持っている方々に貢献したいと考え

ている。

起源：聖書、文学作品、その他、不明
文字通りの意味：＜・・・・・＞
伝える意味：主張、命令、警告、勧誘、忠告
全体か部分か：全体＞部分 or 全体＜部分
フォーマリティ：F＞I or F＞I
類似の英語のことわざ：・・・・
類似の日本語のことわざ：・・・・
英米差：なし、米、英
変異形の種類：同意語句、省略、付加、別形式、PC、時代変化 etc.
使用例と使われる状況：なぐさめ、あきらめ、はげまし etc.

参考文献

秋本弘介（2000）『英語のことわざ』創元社.
Austin, J.L.（1975[2]）*How to Do Things with Words*. Oxford: Clarendon Press.
Burke, D.（1995）*Street Talk 3*, Optima Books.
北村孝一・武田勝昭編（1997）『英語常用ことわざ辞典』東京堂出版.
Mieder, W.（2004）*Proverbs: A Handbook*. Greenwood Press.
大塚高信・高瀬省三共編（1978）『英語ことわざ辞典』三省堂.
奥田隆一（2016）『英語教育に生かす英語語法学』関西大学出版部.
奥田隆一（2020）『英語ことわざ使用の実態』関西大学出版部.
奥津文夫（2000）『日英ことわざの比較文化』大修館書店.
Ridout, R. & C. Witting（1967）*English Proverbs Explained*, Pan Books.
戸田豊編著（2003）『現代英語ことわざ辞典』リーベル出版.